



つなぐ

Vol.144

2021 Summer

令和3年7月1日

発行人 長野県民生委員児童委員協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 広報委員会
委員長 月岡 幽美子

〒380-0936
長野市大字中御所字岡田98番地1
(長野県社会福祉協議会内)

特集

コロナ禍での ふれあいの大切さを考える

Contents

- ◆ 特集 コロナ禍でのふれあいの大切さを考える
 - 岡谷市子育て支援館 こどものくに 2~3
 - 公益財団法人 長野県長寿社会開発センター 4~5
- ◆ 民児協訪問
 - 松本市里山辺地区民生児童委員協議会 6
 - 南牧村民生児童委員協議会 7
- ◆ 令和3年度長野県民生委員児童委員協議会連合会事業計画 8

岡谷市子育て支援館 こどものくに

岡谷市中央町 1-11-1 イルプラザ 4 階 TEL0266-24-8403
URL: <https://www.city.okaya.lg.jp/soshikikarasagasu/kosodateshienkan/398/6384.html>



主に未就園児とその保護者が対象。
開館時間は9:30~17:30
毎月第二火曜が定休。
入館料は無料。登録実費200円。
駐車場は5時間まで無料。



館長：橋原 浩子さん、
インタビューは林広報委員。

母親と未就園のことも違が、日中楽しく過ごせる子育て広場として人気の「こどものくに」。駐車場完備で広い館内、お昼寝コーナーや食事コーナー（現在利用不可）もあるため、コロナ禍以前は、下諏訪町・茅野市・富士見町・箕輪町・辰野町など近隣市町村も含め、通常なら1日約200人が詰め掛けていたそうです。
本誌つなぐの広報委員の林みな主任児童委員と4月9日に訪ねました。

2020年3月以降、コロナ禍で、様々なイベントや集まりが中止となってきました。学校の行事への民生児童委員の参加や、懇談会の減少も顕著です。また高齢者が対象のお茶のみ会がなかなか開けず、高齢者の現状把握が困難になっています。
今回の特集では、「**岡谷市子育て支援館こどものくに**」を訪ね、小さな子を持つ親の状況やコロナウイルス対策を取材。また明るく豊かな長寿社会づくりを応援する「**長野県長寿社会開発センター**」を訪ね、シニアの居場所作りのヒントをいただきました。
子育て中の親や高齢者の現状とふれあいの大切さを考えます。

消毒と滞在時間制限をし、親子を受け入れる

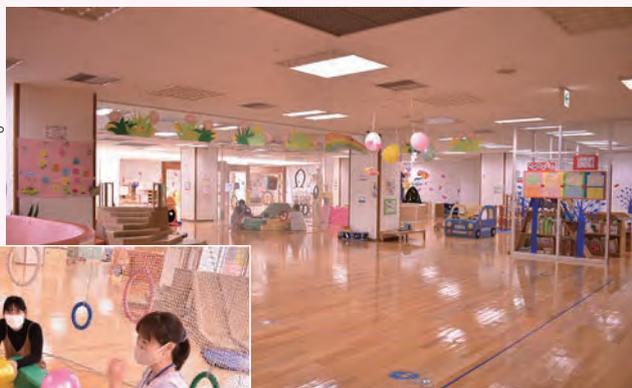
現在、遊具やおもちゃの定期的な消毒など、コロナ対策を念にした上で、滞在時間の制限（2時間程度）を設け、同時に利用100人以下として開館しています。
スタッフは8人。館長の橋原浩子さんをはじめ、保育士・看護師・栄養士と全員が有資格者で、利用者の相談に乗るなどのサポートもしています。

「昨年3月から自粛傾向で、利用者が減った。しかし11月末ごろから、一気に利用者が増えた。母親達が自宅での保育に限界を感じたのでは」と館長。冬季から需要が増え、多い時は1日計150人ほどが利用しています。

「家庭のキッチンや居間などをイメージした手作りのコーナーが人気」と林委員。はいはいの子どもから、入園前の子まで、成長に合わせて遊べるスペースが充実しています。ドレスなどのコスプレもスタッフの手作り。遊びながら、スタッフが母親に気軽に声がけして、必要があれば子育ての相談に乗ると言いつ体制ができています。

実家に帰れない母親達が悲鳴をあげる事態に

「コロナが長引き、県外の実家に全く帰れない母親が、ホッとできる時間を提供したい」と館長は話します。「もつ無理！」



▶ 広々とした館内で見通しもいい。



◀ 利用者の親子2組は「なくてはならない場所です!」と口をそろえます。

言いつ悲鳴のような声は、電話ではなく対面でないと受け取れない」と強調します。
「コロナ禍で、子育てをしていても、話し相手がいらない上に、仕事以外の理由で預けることもなかなかできません。電話やSNSでは、実家の親を心配させないよう、



▲絵本のコーナーも充実しています。



▲スタッフ手作りのコスプレ衣装は大人気。



▲はいはい児のコーナーもあり、安心して遊べます。

「実はそう言う母親も、聴いてほしいだけで、アドバイスは望んでいない場合が多いのでは」と林委員。母親として見るのではなく、一人の人間として接することがポイント。苗字ではなく名前を呼んで接することも重要だと言います。

また、来館するのは、子どものためというより、自分のために来ているお母さんが多いのが現状。スタッフに頼み、子

なかなか悩みを話せない傾向があると言います。息抜きに友人とカフェに行く、と言つのも子どもを伴つてでは難しい状況が続いています。

ある日「元気がないね、どうしたの？」と、こどものくへの受付で、お母さんに声をかけた館長。「自分のことを思つて見ていてくれる、覚えていてくれるのは嬉しい」と涙する母親もいたそうです。「このままの状況が続くと、命を絶ちたいとさえ考えましてしつぷ可能性がある」と指摘します。「特に、日頃こうした場所に積極的に顔を出したり、活動的なリダー格だった母親に、こうした傾向が出やすいのでは」と、スタッフは心配しています。できるだけ声がけをして話を聞くようにしているそうです。

一方で、夫が在宅勤務となつたり、収入が減つたりした場合、ストレスが互いに溜まつて関係がギクシャクすると言つ事例も見られるとのこと。「コロナ禍における状況の変化は、結局、母親にしわ寄せがいつてしまつていいるのでは」と、感じる場面も多いと言います。

アドバイスは望んでいない。ただ傾聴するだけ

近隣で見かけたら、さりげない声がけを

「コロナ禍の中で、私たち民生児童委員が何かできることがあればぜひアドバイスを」と林委員が館長に問いかけました。「見守ることが大事。母親も一人の女性であることを理解しながら、さりげない見守りを」とのコメントをいただきました。1つ目としてまず目を向けること。2つ目として「あれお子さん歩けるようになったのね」など、さりげなく声掛けを。3つ目として傾聴に徹すること。4つ目として、地域や近隣の子育て広場などにつなげること。

「子育て支援事業は、イベントの回数や利用人数を一定の成果と捉える傾向があった。しかし、コロナ禍では、目に見える成果は気にせず個別の丁寧な声がけが

どもを置いてトイレに立つ母親が多いのもそれが理由ではと考えられます。「トイレに行く間だけでも一人になりたい。一人の時間がないとおかしくなるといふ気持ちの表れでは。この傾向は、コロナ禍になって増えたと感じる」と心配そうに話してくれました。

そういう場面に遭遇した時は、「大変でしょう?」とただ、声をかけてあげるだけでいいとのこと。「本当に辛い時、人は逆に元気に振る舞つてみたりして、声を上げられない人もいる」と分析しています。そんな母親達が、みんなに見守られているという安心感を持ち、ホッとできると感じられる場所になるよう、スタッフの皆さんは心掛けています。

必要」と館長。これを受けて、林委員は「もう一度、原点に戻つて役割を考えたい。会を開いて成果を望むよりも、声かけの仕方を見直す。コロナ禍を前向きに捉えて活動していきたい」と答えました。最後に、「お母さんの心が潤っていないと、子どもに愛情をかけられないですから」との館長の言葉が印象的でした。



▲この日勤務していた笑顔が眩しい、スタッフの皆さんです。

おむつ替え室や授乳室、赤ちゃんの体重を測れるコーナーもあります。



特集 コロナ禍での ふれあいの大切さを考える

その ②

公益財団法人 長野県長寿社会開発センター

長野市中御所岡田 98-1 長野保健福祉事務所庁舎 2 階
TEL026-226-3741 URL: <https://www.nicesenior.or.jp>
設立：平成元年 5 月 理事長：内山二郎氏
※この他、県内 10 地域に支部事務局を設置



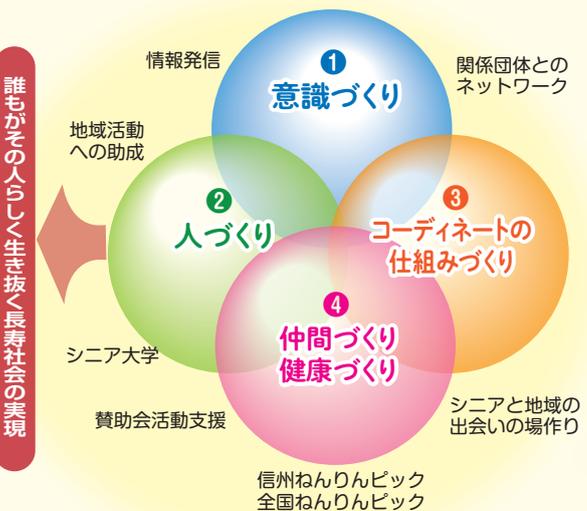
主任シニア活動推進コーディネーターの戸田千登美さん

センターの役割は「人生二毛作」社会を作る。長野県長寿社会開発センターが掲げる「人生二毛作社会」とは、高齢者が長年培った豊富な知識、技術、経験などを活かして、積極的に就業、創業や社会活動を行える社会のことです。

平成25年に、県の「人生二毛作推進県民会議」で、シニアの活躍の場として、就労・社会活動・NPO・ボランティアなど広くある中、人生80年から90年時代へ移った今、シニアの活動団体が連携できるプラットフォームが必要と、シニア活動推進コーディネーターが配置されました。30年3月の「長野県総合5か年計画」でも、「人生二毛作社会」の実現を、

コロナ禍で、高齢者はどう工夫し活動しているのか。「誰もがその人らしく生き抜く長寿社会の実現」を目標にした公益財団法人長野県長寿社会開発センターを訪ねました。長野県シニア大学の運営を核として、コーディネーターを県内10地域に配置し、地域と関わるシニアの皆さんの人材育成や仲間づくりと健康づくりを目指して事業に取り組んでいます。同センター主任シニア活動推進コーディネーターの戸田千登美さんにお話を聞きました。

センターの役割は「人生二毛作」社会を作る



誰もがその人らしく生き抜く長寿社会の実現

重点政策に掲げています。長野県長寿社会開発センターは「誰にでも居場所と出番がある長寿社会の実現」をと、次のような4つの柱に沿った事業を行っています。

- 1 シニアの社会参加の機運を高める「意識づくり」
- 2 地域と関わる人材、地域課題を解決する人材を養成する「人づくり」
- 3 シニアの社会活動・就業を推進するための各種関係機関・団体と連携し協力を構築する「コーディネートの仕組みづくり」
- 4 シニアが地域の多様な人たちとつながり、健康で活躍できる場づくりを支援する「仲間づくり・健康づくり」

（右図参照）

シニア大学を再開！専門コースが話題に

「長野県シニア大学」は、学習時間は60時間。50歳以上の県内在住者で、60〜70歳代が多いとのこと。毎年1,200人近くが受講しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の広がりで休校となりました。今年度は1,000人弱の受講生で再開し入学式が終了しました。一般コースは2年制です。「教養講座」では時事問題や福祉制度、健康や安全についてなど。「実技・選択講座」では、芸術・文化・スポーツなど。「社会活動講座」では、地域社会の現状と課題、経験や知識を地域で生かす方法などを学びます。



▲県外の大学ゼミに定期的に参加をして大学生と対話を重ねる「おしゃべり楽校」



▲シニア大専門コースビジネスデザインコース授業風景



◀小学校でマスクづくりを教える



▲フレイル予防市民ナビゲーターとして
研修で寸劇を披露するシニア



▲若者×シニア「シニアと若者を結ぶ、
対話と気づきのワークショップ」



▲通信会社と連携し開催したスマートフォン
セミナー。シニアの関心の高さに驚き

また、今年で4期生となるシニア大学
専門コースは、定員30人1年制で35時間
ほど学習します。地域の課題に向き合っ
て解決するスキルを持ったリーダーやプ
ロフェッショナルな人材を養成。基礎科目
は全員で、専門科目はゼミ方式です。50
代の現役会社員の参加もあり、社会的な
起業やNPOへの就労につながった事例
など様々。第二の人生を切り開いていく
様子が戸田さんはコーディネーターとし
てのやりがいを感じてきました。

受講生や卒業生が地域で生き生きと活動

食品ロスと貧困を解決する「フードバ
ンク」の活動をする人、地域の婚活アド
バイザーになった人、居場所など課題に
対して実践的なアプローチがしたいと子
ども食堂を運営する人。など、シニア大
学を経て、第二の人生の目標に向けて生
き生きと活躍する人が増えていきます。「社
会のために自分たちがなんとかしよう
という意識が高まった」。シニアが社会参
加をしたかと思いつても、なかなか相
談する窓口が少なかったのですが、10地
域にコーディネーターが配置されたこと
で、卒業生同士や団体同士、関係機関と
の連携がスムーズになったといえます。

また、特に専門コースの受講生の意識
が高く、国連で採択された持続可能な開
発目標SDGsへの理解や、相次ぐ災害
で、自らが何かしなければという意識が
芽生えてきた様子がつかえます。

コロナ禍の中、オンラインで交流を図る

「コロナ禍で、孤立感がひしひしと伝わ
ってきた」と戸田さん。シニア大学は休
校を余儀なくされましたが、この間も
各支部で受講生や卒業生などの会員に使
りを出していました。

長野県長寿社会開発センター支部

1. 佐久支部 (佐久保健福祉事務所)
電話：0267-63-3141
2. 上小支部 (上田保健福祉事務所)
電話：0268-25-7124
3. 諏訪支部 (諏訪保健福祉事務所)
電話：0266-57-2910
4. 伊那支部 (伊那保健福祉事務所)
電話：0265-76-6863
5. 飯伊支部 (飯田保健福祉事務所)
電話：0265-53-0464
6. 木曾支部 (木曾保健福祉事務所)
電話：0264-25-2218
7. 松本支部 (松本保健福祉事務所)
電話：0263-40-1911
8. 大北支部 (大町保健福祉事務所)
電話：0261-23-6507
9. 長野支部 (長野保健福祉事務所)
電話：026-228-7023
10. 北信支部 (北信保健福祉事務所)
電話：0269-62-3725

「スマイル・プロジェクト」で交流

「コロナ禍でも社会のためにできること
を」と、手作りマスクを作る「スマイル・
プロジェクト」を各支部で企画。シニアの
皆さんに呼びかけ、5,000枚弱を作成し

また企業の社会貢献事業と連携して、I
Tを活用したビデオ通話サービス（Z
oom）がスマホでも使えるようにと、支
部毎にセミナーも行いました。9月から今
年1月まで10支部で24回開催し、延べ400人
が受講しました。今年1月から3月にか
けては、「シニア」と「シニアを求める側」
が出会う場である「タウンミーティング」
を、Zoomを活用して実施できました。

このようなオンライン交流を図る取り組
みについては「IT活用技術の習得は、遠
隔医療や新たな学びにもつながる」と高い
評価を受けました。反響も大きく、シルバ
ー人材センターなどと企業とが連携した新
たなIT活用実践への広がりも期待されて
います。

小学校の畑づくり
サポーターとして
活躍するシニア



▲中学生とシニア
の「哲学ウォーク」
打合せ

また、企業との社会貢献事業と連携して、I
Tを活用したビデオ通話サービス（Z
oom）がスマホでも使えるようにと、支
部毎にセミナーも行いました。9月から今
年1月まで10支部で24回開催し、延べ400人
が受講しました。今年1月から3月にか
けては、「シニア」と「シニアを求める側」
が出会う場である「タウンミーティング」
を、Zoomを活用して実施できました。

このようにオンライン交流を図る取り組
みについては「IT活用技術の習得は、遠
隔医療や新たな学びにもつながる」と高い
評価を受けました。反響も大きく、シルバ
ー人材センターなどと企業とが連携した新
たなIT活用実践への広がりも期待されて
います。

また、企業との社会貢献事業と連携して、I
Tを活用したビデオ通話サービス（Z
oom）がスマホでも使えるようにと、支
部毎にセミナーも行いました。9月から今
年1月まで10支部で24回開催し、延べ400人
が受講しました。今年1月から3月にか
けては、「シニア」と「シニアを求める側」
が出会う場である「タウンミーティング」
を、Zoomを活用して実施できました。

また、「マスクを福祉施設に届けに行っ
たら職員が疲弊していた」と気がついたシ
ニアの方々のアイデアで、「絵手紙プロジェ
クト」が立ち上がりました。佐久地域では、
小中学校へシニアが教えに行き、絵手紙
1,000枚弱の巡回展示も行われました。
活動の広がりとして、中学生とシニアが
対話をしながら山を歩く「哲学ウォーク」
にも参加しました。コロナ禍でもできる活
動であることから主に山好きのシニアが参
加し、互いを理解し合うことができました。
「コロナ禍であってもできる事はある。
これからもシニアと若者が対話を通じてお
互いを知り合う機会をもっと増やしてい
きたい」と戸田さんは話していました。

訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協 だより



松本市里山辺地区民生児童委員協議会



▲前列左から3番目が会長の赤羽さん、その右が副会長の小岩井さん、最後列右から4番目が副会長の模さん。

アンケートで、高齢者のニーズを探る。OBと一緒に作る「つながろう会」とも連携して活動を。

松本市里山辺地区は、美ヶ原高原西麓へ、薄川が形成した扇状地に位置し、豊かな水を利用した水田が広がっています。市街地まで車で10分程度と便利で人口は約12,000人。民生児童委員が22人、うち主任児童委員が2人です。

主任児童委員で副会長の小岩井里美さんは「アパートや住宅が新築され、赤ちゃんが月10人程度生まれる地域」と説明します。この地区では今年4月から赤ちゃん訪問を再開しました。副会長の模(ぼく)清子さんは会長と同級生でもあり、三役の円滑な連携が運営を支えています。

また、「コロナ対策をしつつ、ふれあい会食会の代わりに、12月にはカイロを、2月にはおまんじゅうを訪問による配布を行い、大変喜ばれました。

「コロナ禍で活動が減るなか、高齢者が何を困っているのかを見直したい機会」と、民児協が主催で「生活アンケート」を今年3月に実施しました。422人に区ごとに配布し、無記名で回答61%回収できました。

結果として、困っていることは、自分の健康、災害時の避難、雪かき、草取りなど。また力を入れてほしい活動は、訪問や声がけ、日常の安否確認、行政への橋渡し、ふれあい健康教室や会食会、カイロのプレゼントなど。住民同士や委員と会って交



▲9つの町会ごとに配布した生活アンケートの写真

流する場が求められていることがわかりました。「結果をしつかり読み込んで、今後の活動に生かしていきたい」と三役。

また、昨年6月には、松本市社協の里山辺地区生活支援コーディネーターの野澤好子さんと協働で、委員や町会長のOBに声がけし「つながろう会」を発足。15人程度が集まり、勉強会を経て、高齢者の散歩支援ボランティア活動を実施しました。それがきっかけで、休むところが少ないことがわかり、手作りの白いベンチを制作。地区の各所に設置の準備を進めています。

「みんなで見守ることが大事。つながろう会をはじめ、地域連携を大事にして、できることを一つ一つやっていきたい」と赤羽さんは結びました。

南牧村民生児童委員協議会



▲民生児童委員の皆さん。前列真ん中が会長の上村さん。その後が副会長の高見澤さん。会長の左隣が副会長の井出さん。

顔の見える関係を大事に。民児協から各機関へ積極的に声がけし連携を図っていききたい。

南牧村は、県の東端、山梨県に隣接し、標高1,000メートル以上の高冷地です。レタスなど全国ブランドの高原野菜が有名で、大規模農業で成功した村として知られています。「武田信玄の影響で甲州気質」と会長の上村弘幸さんは話し始めます。開拓精神があり、よく働き忍耐力がある。一方で頑固で義理堅いとも言われています。

民生児童委員は13人、うち2人が主任児童委員です。「コロナ禍で、入学式や卒業式など、学校との関係が薄くなっている。働きかけて、少しでも出席して民生児童委員の存在を知ってほしい」と話す上村会長。

「高齢者には手厚い支援がある村。しかし子どもがいる家庭の環境は都市部と変わらな」と感じる」と話すのは、主任児童委員の大菅理良さん。そこで、「地域子どもたちや親にとつて、知っている近所のおばさんになりたい」と同じく主任児童委員の井出さとみさんは話します。

「若い人と、祖父母世代の豊かさの物差しが変わっている」と上村会長が言つと、「小中の教員との合同懇談会を要望したい」と副会長の高見澤陸己さんが説明します。同じく副会長の井出いそさんは「自分自身が、最期までこの村にいたい。体を大事にしつつ、地域の仲間と、活動をしていきたい」とおだやかに答えました。

定例会には、地域包括センター、社会福祉協議会、行政職員も必ず出席し、情報共有しています。取材した5月18日の定例会には、有



▲三役と主任児童委員の2人に話をうかがいました。

坂良人副村長が出席し、コロナ禍での活動、特にワクチン接種への協力について触れ、労いました。南牧村では、段階的に75歳以上は5月15日に、65歳以上は29日にそれぞれ2回目の集団接種を終えました。委員も当事者の相談に乗り、接種当日もスムーズに終了したとのこと。「ワクチンを打つて、ほっとした」との高齢者の反応が、定例会でサポートした委員から報告されていました。

また、子どもたちの登下校の見守りを自主的に行ったり、包括支援センター主催の「からっ茶カフェ」運営に協力したりするなど、地道に見守り活動を続けています。



表紙写真紹介

諏訪大社下社春宮
「万治の石仏」

撮影

岡谷市岡谷地区民生児童委員
もりしたまさひで
森下 正秀 さん

下諏訪の地にあった大きな石を加工しようとノミを入れたところ、石から血が流れだしたため石仏として祭ったという伝説を持つ「万治の石仏」。その名の通り「万(よろず)のことが治(おさまる)」石仏としてご利益があるそうです。来年は7年に一度の奇祭、御柱祭です。

profile 民生児童委員として現在3期目となります。最近の携帯電話はカメラ機能が優れているので、出かけ先で気に入った風景を見つけると、たくさん写真を撮って楽しんでます。



表紙写真募集!!

- 表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にしていらっしゃる民生児童委員の方々地域の風景やお祭りなどの風物詩を撮った写真を募集します。
- デジカメで撮った作品の電子データをCDRIに入れて、撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて県事務局までお送りください。
- 詳細は県事務局(026-225-1613)まで。

令和3年度長野県民生委員児童委員協議会連合会事業計画

「支えあう 住みよい社会 地域から」～住民の笑顔、安全、安心のために～

I 事業の方針(抜粋)

※一部省略・要約して掲載しています。

昨年の新型コロナウイルス感染症の出現は、日常生活や経済活動などに非常に大きな影響をもたらしています。民生委員・児童委員は、感染拡大の防止を念頭に、「新しい生活様式」の下で知恵を出し合いさまざまな工夫を凝らしながら、つながりや見守り活動を継続しています。ウィズコロナ、ポストコロナの時代にあっても、常に寄り添い、「住民の笑顔、安全、安心」の実現に貢献できるよう、昨年、県民児童も加わり県社協が中心となりまとめた長野県地域福祉活動計画「信州ふっころプラン」も念頭に次の事業を進めてまいります。

II 事業の重点(抜粋)

※一部省略・要約して掲載しています。

- 1 災害に備える委員活動の推進**
行政機関や地域の関係団体と連携・協力しながら、災害に備える活動の取り組みを進めます。
- 2 地域社会での孤立・孤独をなくす運動の推進**
日々の相談・見守り活動を充実させる支援を行うとともに、行政や地域の関係団体等と協力しながら共助の取り組みを進めます。
- 3 地域における子育て支援活動の推進**
児童虐待や犯罪被害等から子どもを守り、課題を抱えた親子を早期に発見し、つなぎ、支える活動に取り組みます。
- 4 生活困窮世帯(生活困難家庭)への相談支援活動の推進**
生活困窮者自立支援制度における民生委員・児童委員の行政等への協力や必要な情報共有など生活就労支援センター「まいさほ」等関係機関との連携を進めます。
- 5 民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりの推進**
委員相互の情報交換を活発に行える定例会となるよう情報提供などの支援を行い、行政との懇談会等の機会を通じ要望を示し、活動しやすい環境づくりを推進します。
- 6 市町村民児協の組織強化の推進**
地域版活動強化方策作成の支援・協力を行うとともに、コロナ禍で活動の経験などが積み難かった一丁目委員のフォローアップについて検討します。
- 7 広報活動の充実**
ホームページの充実を図るとともに、県との連携を強化しながら広報に努めます。

III 事業実施計画

※研修のみ掲載/研修の期日等は、変更になることがあります

研修会・セミナー等の開催

- ①民生委員児童委員協議会会長研修
令和3年8月26日(木) (中南信会場: 県伊那文化会館)
令和3年8月27日(金) (東北信会場: ホクト文化ホール)
- ②主任児童委員研修
令和3年11月4日(木) (中南信会場: 松本市浅間温泉文化会館)
令和3年11月5日(金) (東北信会場: 長野市若里市民文化ホール)

民生児童委員のCMが放送されます

ACジャパン
「2021年度支援キャンペーン」
のお知らせ

全県民連がACジャパンの支援を受けることになり、民生児童委員を知ってもらうことを意図した広告が、7月からテレビ・ラジオで放送されます。

重要なお知らせ

民生委員・児童委員研修(1期目委員対象及び2期目以上委員対象)は動画視聴形式とします

- 今年度標記研修については新型コロナウイルス感染拡大防止などの観点から、例年のような集合形式の研修は行わず、動画を制作し各単位民児協毎に視聴・意見交換していただく研修とします。
- 「民生委員児童委員活動にかかる『事例学習』」をテーマに動画を制作し、DVDを配布します。
- 各民児協定例会時などに併せて、全委員が動画を視聴いただきますようお願いいたします(1期目委員、2期目以上委員で分けることはしません)。
- 詳細については各市町村民児協事務局へ別途通知します。

今回コロナ禍の中、岡谷市子育て支援館一を取材し、母親と子ども達が家庭のような雰囲気でのびのびと過ごせ、専門スタッフによって食事や健康面にもきめ細やかなサポートが行われていることを感じました。人との交流が減り母親がひとりでの悩みを抱えながら育児をしなければならぬ状況はあるかと思われまます。「お子さんだけでなく、お母さん達にも寄り添って声掛けしたり応援をする。個別丁寧な声かけが必要」という館長さんの言葉が印象に残りました。また、人生90年代に突入り、シニア世代が第一の人生を切り開いていくための準備として、シニア大学は大きな起点になっていることを感じました。第二の人生をどのように過ごすか、知識・技術を学び社会に再び貢献できることはまさに健康維持や生きがい作りにつながります。高齢者人口の割合が増加している現在、社会はシニアの出席を必要としています。その中で、今後モシニア大学はますます進化していくことだと思います。

委員長 月岡 幽美子

